

# 開進第一中学校・早宮小学校・開進第一小学校

## 中学校区の特徴

- ・両小学校の児童の多くが開進第一中学校に入学する校区である。
- ・青少年育成第二地区委員会に支えられている校区である。

## 目指す 15 歳の姿

- ・知徳体のバランスのよい育成を図る。
- ・発達段階に応じて、社会性を身に付けた児童・生徒の育成を図る。

## 1 目指す 15 歳の姿の具現化に向けた取組

### (1) 学校生活の充実に向けた取組

挨拶についての取組では、児童・生徒が主体的にあいさつができることを目標に取り組んだ。

小学校では、あいさつの仕方についての掲示物を校内に掲示することで児童のあいさつに対する意識が高まり、自らあいさつをする児童が増えた。また、学年ごとに目標を設定して、段階に応じたあいさつができるようになった。



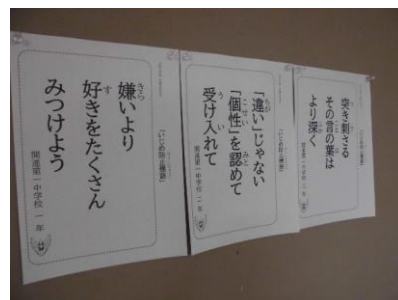
【あいさつ運動】

中学校では、これまでのあいさつ運動を見直して、生徒会執行部主体のクラス単位でのあいさつ運動を実施した。相手を意識したあいさつ運動のやり方をそれぞれのクラスが主体的に考え行うことで、学校全体が朝から気持ちの良い雰囲気に包まれていた。

学校生活のきまりについては、掲示物や冊子にして児童・生徒・教員が共通理解のもと、お互いが気持ち良く学校生活が送れるようにした。

### (2) 人権教育に関する取組

いじめ防止の各校の取組では、校内研修や生活指導部会等を通して、教員の人権感覚を高めた。また、各校の児童・生徒に「いじめ防止標語」を作成してもらい意識を高めさせた。また、作成した標語を各校で掲示をして交流を行った。



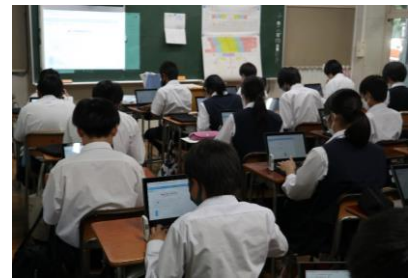
【いじめ防止標語】

ふれあい月間では、いじめ防止集会、アンケートの実施等で児童・生徒の心の声を把握するように努めた。どんな些細なことでも教員間で共有をして児童・生徒に寄り添いながら心のケアに努めた。

相談体制としては、児童・生徒が相談しやすい環境作りを心掛けている。小学校では、振り返りジャーナル、中学校ではデイリーライフを活用して、担任と児童・生徒をつなぐツールとしている。一言日記に書かれた細かな事柄を担任が拾い、いじめにつながらないようにした。児童・生徒と親身に向き合うことで、各校落ち着いた学校生活を送ることができている。

### (3) ICTなどの活用に関する取組

ICTの効果的な活用や情報モラル教育の充実に向けての取組としては、児童・生徒の実態に応じて、学習効果が期待できるものを積極的に実践している。小学校から中学校にかけて、着実な積み上げでスキルアップが図られている。その効果もあって、授業の展開がスムーズになり、児童・生徒が考える時間を十分に取ることもつながった。児童・生徒はタブレット端末を使用することで、学習に対する興味関心をもち、意欲的に学ぶ姿が多く見られている。今後も各校での実践を共有しつつ、教育活動の場でICTを効果的に活用していく。



【ICTの効果的な活用】

## 2 今年度の取組日程

日程	取組内容
6月16日(木)	第1回校區別協議会(開一小)
6月28日(火)	中学校訪問(開一小)
7月12日(火)	中学校訪問(早宮小)
10月6日(木)	部活動体験(早宮小)
10月25日(火)	第2回校區別協議会(早宮小)
11月4日(金)	部活動体験(開一小) 感染予防で中止

## 3 今年度の成果と今後の方向性

教育活動の制限が緩和され、今できる形で実施する行事が増えてきた。様々な教育活動の中で、児童・生徒の笑顔が見られたことは、非常に喜ばしいことである。今年度の小中一貫教育の取組では、これまでの積み重ねを基に新たな試みも多くあった。各校の先生方が日頃から真摯に児童・生徒と向き合っていることが、このような実践に結び付いたと考える。今回は、取組の3本柱を「学校生活の充実に向けた取組」、「人権教育に関する取組」、「ICTなどの活用に関する取組」とした。どれも、児童・生徒の豊かな心を育み、確かな学力を定着するものであった。

今年度2回行われた校區別協議会においては、各部会でテーマに基づいた実践と情報交換によって、3校の連携を図ることができた。ICT機器の活用については、情報活用スキルや、情報モラル、タブレット端末活用のルールなどの共通理解を今後も図る必要がある。

こうした課題も踏まえ、来年度も学校や児童・生徒の実態に合わせたテーマを設定していくことが望まれる。今年度の実践で得られたことを次年度も継続していくとともに、今の時代に合わせて様々な教育活動にチャレンジしていくことも大切だと考える。



【主体的に学びに向かう生徒の姿】

「小中一貫教育の取組プログラム」

開進第一中学校・開進第一小学校・早宮小学校 グループ

【目指す15歳の姿】 ◎：重点取組（研究主題 発達段階に応じた社会性を身に付けた児童・生徒の育成を図る）

- 「知・徳・体のバランス」の取れた姿
- ◎「発達段階に応じた社会性」を身に付けた姿
- 「時代の変化に柔軟に対応する力」をもった姿



「柱」となるテーマ		学校生活の充実に向けた取組	人権教育に関する取組	ICTなどの活用に関する取組
中学校	第3学年 (第9学年)	○正しい言葉や敬語を使いながら、社会に出る準備としての挨拶ができるように指導する。	○国語「塩狩峠」の一冊読みをして、生きることについて多面的・多角的に考えさせる。 ○毎週の学年朝会の運営を生徒たちに任せることで自己有用感を高めさせる。	○基本的な操作：ClassroomからGoogleスライドやMeet、Jamboardなどを、作品の制作活動の過程で活用させる。 ○情報モラル：小学校で学んだタブレットの活用ルールを守る生徒が多いため、小中の連携を生かして引き続きルールを徹底させる。
	第2学年 (第8学年)	○部活動や生徒会活動など、学年を超えた円滑なコミュニケーションをするための挨拶ができるように指導する。	○国語「いちご同盟」の一冊読みをして、生きることの意味やその価値について考えを深めさせる。 ○校外学習のテーマなど、自己決定する場面を設定する。	
	第1学年 (第7学年)	○学級や学年で新しい人間関係を形成するための挨拶ができるように指導する。	○国語「夏の庭」の一冊読みをして、生と死について考えさせる。 ○SNS東京ノートを活用し様々な場面での人との関わり方の具体例を基に学ばせる。	
小学校	第6学年	○挨拶の意義を理解し、すすんで実行できるように指導する。	○日記や振り返りジャーナルに言い出しにくいことも書いて伝えられるように指導する。 ○児童が書いた思いを汲み、得た情報を基に個別対応をする。	○基本的な操作：スライドやJamboardを活用して調べたことや考えたことなどを発表・共有させる。 ○情報モラル：著作権や肖像権など、自他の権利などについて重点的に指導する。
	第5学年	○正しい言葉遣いができるように指導する。		
小学校	第4学年	○相手の目を見て、誰にでも自分から挨拶ができるように指導する。	○自分たちで話し合い、問題解決しようとする態度を育てる。 ○言葉の使い方を指導し、児童同士が話し合い、解決できるようにさせる。 ○自分の困り事を自分で伝えられるように指導する。 ○日々の些細なもめごとを見逃さず、児童の話をしっかり聞き、丁寧に対応する。	○基本的な操作：オクリンクなどを活用して意見を出したり、交換したりさせる。 ○情報モラル：自他の情報の大切さを踏まえ、適切にタブレットを活用するように指導する。 ○基本的な操作：起動や終了、写真撮影や手書き入力など基本的な操作をさせる。 ○情報モラル：情報を扱うときの基本的な約束を守るよう指導する。
	第3学年	○丁寧な言葉遣いができるように指導する。		
	第2学年	○元気よく挨拶ができるように指導する。 ○「はい」と返事ができるように指導する。		
	第1学年			